

生き物ウォッチング 2020 in 室戸ユネスコ世界ジオパーク

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸にすむ野生動物の調査・観察を行う活動を通して、生き物への興味関心を高め、主体的に学ぶ力、観察する力を育む。

○ 実施期間

令和2年11月7日(土)～令和2年11月8日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学生、未就学児とその保護者

8家族 22名/定員20名

○ 活動プログラム

11月7日[土] 曇りのち雨	11月8日[日] 曇りのち晴れ
12:30 室戸世界ジオパークセンター着(所バス)	6:00 起床
13:00 受付	6:40 ネズミトラップの確認・観察・片付け
13:10 オリエンテーション	7:45 朝食
13:25 室戸ジオパークの説明	8:30 清掃・点検
14:55 動物カメラの設置	9:00 動物カメラの回収
16:05 ネズミトラップの設置	10:00 カメラ映像の確認
16:55 配宿・入所オリエンテーション	10:30 生き物のお話
17:45 夕食	11:00 スタッフ挨拶・アンケート記入
18:30 骨格パズル	11:15 終了
20:00 ナイトハイク	11:30 自然の家発(所バス)
20:30 入浴・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

室戸世界ジオパークセンターにて行われたオリエンテーションでは、参加者とスタッフが自己紹介と、自分の好きな生き物について紹介した。その後のジオパークの説明では、参加者は室戸の海底の地形についてインストラクターの説明を受け、また3Dマップを用いて学習した。参加者は室戸沖の海底の急激に深くなる地形に驚き、その他にもセンター内の室戸の文化や特産品の展示に興味を引かれていた。

次に、動物の観察のために使用するカメラの説明を聞き、自然の家内の冒険の森にてカメラの設置を行った。参加者たちは谷地森先生の説明をもとに、生き物が通りそうな場所をそれぞれに考えながら、カメラを設置していった。カメラを設置する際、森では小さなカナヘビや30cmほどあるカンタロウなどが見つかり、子どもたちからは生き物が見つかるたび歓声が上がっていた。

その後は草スキー場まで移動し、ネズミトラップを設置した。先生から、「雨天時にはネズミを

捕まえる鳥などの生き物があまり動かなくなるため、捕まえるためにはいい条件です」という言葉もあり、参加者は期待を膨らませながら思い思いの場所に設置していた。

夕食後は雨が降ってきたため、雨天時に実施する予定であったタヌキやアナグマの骨格パズルを行った。参加者たちは見本の標本や先生の説明をもとに、手に取った骨がどこの部分の骨であるかを考察し、家族や友だちと協力し合いながら正しい位置に並べ替えていた。パズル終了後には、参加した子どもたちから、「タヌキの好きな食べ物は?」「タヌキに似た生き物は?」など質問が多数寄せられ、参加者の生き物に関する関心の高まりが感じられた。

その後は小雨の中、ロッジまでナイトハイクを行いながら戻った。雨のため生き物の姿や声などを見聞きすることは出来なかったが、参加者たちは普段は出来ない夜中の散策を楽しんでいるようだった。



<2日目>

2日目は早朝より、ネズミトラップの確認を行った。今回は残念ながらトラップにはネズミはかかっておらず、参加者は落胆した様子を見せていた。それでも参加者たちは研修棟の周りで鳥や虫を探しに散策したり、先生が持参した生き物の図鑑を読んだり、それぞれ主体的に生き物について触れ合う意欲を見せていた。

朝食・部屋の片付けを終えた後、今度は動物カメラの回収を行い、映像の確認を行った。家族ごとに設置したカメラの内、並んで歩く2頭のイノシシの姿が映っているものがあり、参加者からは大きな歓声が上がっていた。

その後には、谷地森先生が四国の各地で撮影したクマやシカなどさまざまな生き物の映像が紹介された。映像にはメスを呼ぶために鳴き声を上げるシカの映像もあり、参加した子どもたちは休憩時間にみんなで泣き声を真似していた。

生き物のお話では、四国内で観察された生き物の写真やその種類などが紹介され、参加者たちはネズミなどのよく知られる生き物の種類の多さや、初めて見る種類の特徴的な姿に驚いているようだった。

スタッフの挨拶の後、その日に室戸の海岸で取れた鯨の顎の骨を観察した後、プログラムは終了した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 友だちやスタッフと仲良くなってうれしかった。
- ・ お友だちがたくさんできたみたいで、楽しかったようです。
- ・ 動物とふれあって、いろんなことを知りたい。
- ・ 未就児も参加できる企画はとてもありがたかったです。個室にお風呂があったのもすごく助かりました。普段経験体験できないことが、今回沢山親子でできたことは、とても貴重な時間でした。谷地森先生をはじめ、スタッフの方、本当に色々ありがとうございました。

○ 事業の成果

- ・ 参加者の子どもたち同士で自主的に生き物を探しに散策したり、当初は生き物が苦手だった子どもが、カナヘビやカニなどを捕まえる他の子どもたちと遊んだりするうちに、最終日には積極的に生き物に触れるようになるなど、子どもたちが主体的に活動し、成長していく姿が多く見られた。
- ・ 雨天にののために急遽実施した骨格パズルであったが、家族同士、友だち同士で話し合ったり、講師やスタッフに積極的に質問をしたりなど、他者とのコミュニケーションを取り、かつ生き物の生態について学習するいい機会となった。

○ 事業の課題

- ・ 動物カメラ・トラップ共に、設置する際にどんな生き物が見つかる可能性があるか、あらかじめ写真付きのリスト等を作成して参加者に提示すれば、参加者の意欲が増し、イメージが明確になると思われる。
- ・ 未就学児の参加者のいる家族が、途中でぐずってしまったたり眠ってしまうなどで、親子共に途中で抜ける場面があった。未就学児の参加者が増えればこのような事態はさらに多くなると思われるので、ジオパークセンターのスタッフとも協議し、参加者が決定した時点でそれに合わせてスタッフの人数や対応などを具体的に調整できるようにしたい。

